

# 北薩地区学力向上アクション

北薩教育事務所

## 1 目的

- 児童生徒が、目的達成や問題解決に必要な資質・能力を身に付ける。
- 児童生徒が、自らの成長を実感し、自信を付け、学力調査で結果を出す。

## 2 内容

### 【アクション1】全職員が全国学力・学習状況調査の問題を解き、同調査解説資料から学ぶ

- ・ 専門の教科、専門以外の教科、他校種の教科等、必ず1教科以上に取り組む。
- ・ 学習指導要領に示された育成すべき資質・能力を理解する。
- ・ 解説資料から、全国学力・学習状況調査の目的や、各教科調査問題における出題の意図を理解するとともに、育成すべき資質・能力と調査問題との関係を理解する。
- ・ 調査問題から、児童生徒の資質・能力を備えた具体的な学びの姿を捉え、そのモデルの姿を授業に反映させるとともに、児童生徒に対して問題の目的を明確にすることの重要性や図解等による情報整理の方法、設問に応じた説明・表現の仕方等について指導する。

### 【アクション2】児童生徒と目指す姿を共有する

全国学力・学習状況調査の問題を活用し、児童生徒が、各教科等で身に付けるべき資質・能力を理解し、目指す姿のイメージを教師と共有する。

- ・ 小学校国語の大問1では、登場人物（小森さん）の、話合いやインタビューにおける必要な資質・能力を発揮している姿（学習者モデル）が描かれ、資質・能力を具体的に理解する手掛かりとなる。
- ・ 中学校理科の大問1と大問9では、「めあて」や「振り返り」を記述する問題や、登場人物が書いた「振り返り」からその登場人物が立てた「予想」を判断し選択する問題が出題され、授業における「めあて」「予想」「振り返り」の重要性や具体的な姿を学ぶことができる。

### 【アクション3】問題の解き方を身に付けさせる

#### 〔長文への対応〕

全国学力・学習状況調査では長文の問題が多く出題される。長文の問題は情報処理の負担が大きいため、その軽減に向け、情報を整理する力を身に付けさせる。

- ・ 設定された場面の中で最も重要なのは「目的（何をしたいのか・何を求めるのかなど）」である。それを正しく把握し、マーカーや色鉛筆、丸で囲むなどして印を付け、はつきり見える工夫を行う。
- ・ 目的を明確にした後、問題文中のデータや条件に印を付けたり、関係のある箇所を線で結ぶなどしたりして、必要な情報をすぐに確認できるようにする。
- ・ リード文等から場面設定を把握し、設問の「何を問われているのか」を確認した上で、問題意識をもって問題文（長文）を読み進める。

### 【その他、問題場面を捉えるための対応例】

「一見簡単そうで、実際は図に表さないと分かりにくい」場面や問題は、図に表すことで情報整理し関係付けて考えさせる。

- ・ 物語文で「AはBに相談し、BはCに伝え、CはAに知らせた。」とある場面は、登場人物の関係を整理するために、人物相関図を書く。
- ・ 「家から学校まで1200mを分速80mで歩きます。出発してから10分後に、学校から来た友達と途中で出会いました。友達の速さは分速何mですか。」の問題は、線分図に表し必要な数字や言葉を書き込む。

### 【アクション4】資質・能力を繰り返しの学習で定着させる

- ・ 新たな知識は、ゼロから習得されるものではなく、既得の知識と関連付けられながら習得されるため、①既得の知識が確かなもの（使える知識）である必要がある。
- ・ 新たな技能も同様に、ゼロから習得されるものではなく、既得の技能と関連付けられながら習得されるため、②既得の技能が習熟・熟達したもの（使える技能）である必要がある。
- ・ 課題を解決するためには、既得の知識や技能に基づいた③「思考力、判断力、表現力等」を発揮することが必要である。
- ・ ①～③の資質・能力を定着させるためには、繰り返しの学習が必要である。
- ・ 児童生徒が、自らどのような資質・能力を身に付ける必要があるのかを理解し、目指す姿をイメージしながら、できるまで・納得するまで、全国学力・学習状況調査の問題や演習問題に繰り返し取り組み、定着を図っていく必要がある。

### 【アクション5】自らの言葉で表現させる

- ・ 「既得の知識や技能」を使い、自らの言葉で表現させる活動を積極的に取り入れる必要がある。その活動を通して、自らの納得に基づく「使える知識や技能」へと高めていくことが重要である。
- ・ 学びの中核である「めあて」「まとめ」「振り返り」についても、自らの言葉で表現していくことが重要である。ただし、「まとめ」には、次の学習に向けた正確さや妥当性が求められる。まず、自らの言葉で「まとめ」を行い、その後、教師の「まとめ」を参照することになるが、単に書き写すのではなく、自らの納得に基づく表現として修正・完成させることが必要である。

### 【アクション6】「できない」と決めつけず、「できるためには何が必要か」を考える

- ・ 「この子供たちに、この長文の問題は難しい」と考えることは、児童生徒の可能性を狭めることにつながりかねない。教師が先に諦めてはならない。
- ・ 「本校は全体的に成績が良好であるから問題ない」と捉えることは、児童生徒が現状で成長を止めることにつながりかねない。教師は児童生徒を更に伸ばさなければならない。
- ・ 現在の指導が最高なわけではない。教師自身も成長し、児童生徒のために更に効果的な指導を目指さなければならない。
- ・ 児童生徒が着実な成長を遂げ、自ら成長を図れるように育てていかなければならない。